

# 近代英語協会第38回大会 (Zoom 会議)

日時：2021年8月21日(土)

開会の辞 9:50~9:55 会長 中村不二夫 (関西外国語大学教授)

シンポジウム 10:00~12:00

「周辺表現はどのように英語標準化時代を生き抜いたのか——3つの事例から考える」

司会 明治大学教授 柴崎礼士郎

講師 「語源的綴字の英語史上の意義を再検討する——初期中英語から現代英語まで」

慶應義塾大学教授 堀田隆一

講師 「適者生存?——二重最上級 bestest と worstest から考察する近現代英語」

明治大学教授 柴崎礼士郎

講師 「近代英語における近接未来表現の出現と拡大」

関西学院大学助教 渡辺拓人

総会 12:40~13:10

研究発表

第一部 13:20~15:30

司会：川端朋広 (愛知大学)

1. 「エリザベス朝演劇における be 動詞の後の人称代名詞の格について」

京都大学大学院生 井上 瞬

2. 「NP as we know it 構文の通時的発達について」

京都大学大学院生・日本学術振興会特別研究員 DC2 佐藤嘉晃

司会：福元広二 (法政大学)

3. 「初期近代英語戯曲における不定詞節を伴う wh 関係節について」

専修大学講師 菊地翔太

第二部 15:40~17:00

司会：岡崎正男 (茨城大学)

1. 「知覚動詞と使役動詞補文に出現する準動詞がもつアスペクト特性の発現時期について」

日本大学大学院生 村岡宗一郎

2. 「worth/worth while の新用法に関する史的統語分析」

愛知大学准教授 本多尚子

講演 17:10~18:10

司会：米倉 綽 (京都府立大学名誉教授)

「英語史研究における部分と全体」

筑波大学・聖徳大学名誉教授 藤原保明

閉会の辞 18:10~18:15 事務局長 前田 満 (愛知学院大学教授)